

科目名		経済学 I Economics I						
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数	
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	前期 100分/週	45時間	
担当教員		【非常勤】馬田 哲次 (【副担当】松野 成悟)						
学習到達目標								
科目の到達目標レベル	本講義では、ミクロ経済学について取り扱う。よって次の項目を到達目標レベルとする。							
	(1) 消費者理論について理解し、市場の需要曲線の導出過程を説明できる (2) 生産者理論について理解し、市場の供給曲線の導出過程を説明できる (3) (1)(2)をもとに市場の均衡条件を説明できる。 (4) (3)における均衡条件を達成できない市場の失敗の場合について説明できる							
学習・教育目標	(C)①	JABEE基準1(2)			(e)			
関連科目、教科書および補助教材								
関連科目								
教科書	「入門経済学[改訂版]」飯田幸裕・岩田幸訓著 (創生社)							
補助教材等								
達成度評価 (%)								
(1) 消費者理論についての理解	中間試験で評価する						25	
(2) 生産者理論についての理解	中間試験で評価する						25	
(3) 市場の均衡条件についての理解	期末試験で評価する						25	
(4) 市場の失敗について	期末試験で評価する						25	
評価方法	(1)中間試験	(2)期末試験					その他	合計
指標と評価割合								
総合評価割合	50	50						100
知識の基本的な理解 【知識・記憶, 理解レベル】	◎	◎						
思考・推論・創造への 適用力 【適用, 分析レベル】	○	○						
汎用的技能 【 】								
態度・志向性(人間力) 【 】								
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】								
学習上の留意点, 学習上の助言								

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	ミクロ経済学の視座について説明を聞き、その全体像がおぼろげながらわかる	次回以降の予習を行う
2	消費者理論	消費者行動理論について、概要ならびに消費者行動を決定する要素が何か理解できる	次回以降の予習を行う
3		予算制約下での効用最大化について理解できる	次回以降の予習を行う
4		個人の需要曲線の導出ならびに市場の需要曲線の導出方法が理解できる	次回以降の予習を行う
5	生産者理論	企業行動に基づく生産者理論の概要を理解し、企業が何に基づいて生産量を決定するのかその要素について分かる	次回以降の予習を行う
6		平均費用、平均可変費用、限界費用などについて理解できる	次回以降の予習を行う
7		1企業の供給曲線の導出について理解し、市場の供給曲線をの導出過程が理解できる	次回以降の予習を行う
8	中間試験		
9	市場分析	完全競争市場における市場均衡の導出過程を理解できる	次回以降の予習を行う
10		独占・寡占などのケースについて理解する	次回以降の予習を行う
11	厚生経済学	生産者余剰・消費者余剰、社会的総余剰などの概念が分かる	次回以降の予習を行う
12		2財モデルをベースにパレート最適性について理解する	次回以降の予習を行う
13	市場の失敗	市場の失敗のケースについて其々理解できる	次回以降の予習を行う
14		市場の失敗のケースにおける政府の役割について理解する	次回以降の予習を行う
	期末試験		
15	まとめ	期末試験の解説とともに、全体の学習事項のまとめを行い、それを理解できる	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自 学 自 習			20 時間